

修士論文（要旨）

2019年1月

幼児期における視点取得と社会的問題解決の研究  
－母親との関連性から－

指導 石川 利江 教授

心理学研究科  
健康心理学専攻  
217J4054  
董 茵菲

Master's Thesis (Abstract)  
January 2019

A Study of Perspective-taking and Social Problem Solving in Early Childhood : Based  
on Relationship with mother

Yinfei Dong  
217J4054  
Master's Program in Health Psychology  
Graduate School of Psychology  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Rie Ishikawa

## 目次

第1章	はじめに	1
1-1	認知的視点取得	1
1-2	感情的視点取得	2
1-3	幼児期の社会的問題解決	3
1-4	母親との関係性	4
1-5	問題提出	6
第2章	目的	6
第3章	方法	
3-1	対象者	6
3-2	使用尺度	6
3-3	統計分析	11
3-4	倫理的配慮	11
第4章	結果	
4-1	対象者の属性	11
4-2	各尺度の平均得点と年齢性別の主効果	12
4-3	幼児の認知的視点取得と感情的視点取得の相関関係	19
4-4	幼児の認知的感情的視点取得と母親の視点取得の相関関係について	19
4-5	幼児の社会的問題解決と母親社会的問題解決の教え方の相関関係	20
第5章	考察	
5-1	認知的視点取得について	22
5-2	感情的視点取得について	23
5-3	認知的視点取得と感情的視点取得の相関関係	24
5-4	幼児社会的問題解決について	24
5-5	幼児の視点取得と母親の視点取得との関係について	26
5-6	幼児の社会的問題解決と母親社会的問題解決の教え方の関係について	26
第6章	本研究の限界	28
引用文献		1
添付資料		1

## 1.1 はじめに

幼稚園や保育園は、3～6歳の子どもたちにとって、母親から離れて、最初に経験する社会である。その最初の社会で仲間や先生と良い対人関係を築くためには、仲間から受け入れられ、先生と良好な関係を築き、対人関係でおこる様々な問題を解決するといった社会的コミュニケーション力（社会的スキル）の形成は幼児期における大切な課題である。円滑な対人関係や社会的問題解決能力を形成するためには、他者の意図や感情といった心の状態を適切に理解すること、自分の意図や感情を適切に表現し伝えていく社会的スキルが必要となる。社会的スキルが欠如すると、将来の学業の問題、精神的な問題、自殺が発生する可能性が高まると報告されている。

## 1.2 問題提起

先行研究から、幼児の認知的視点取得と感情的視点取得の発達は、単一なものではなく、個人差、環境要因、母親の言語の用い方や、きょうだいがいるかなどの家庭要因にも関連している。しかしながら、母親の視点取得は幼児の認知的・感情的視点取得にどんな風に影響があるか、母親は社会的問題解決の教え方は幼児の社会的問題解決に影響があるかについて、明確にされていない。さらに中国では、幼児の認知・感情的視点取得と社会的問題解決に関する研究は少なく、中国の幼児はどのように発達しているかはまだ明確ではない。

## 第2章 目的

本研究では、幼児の視点取得と社会的問題解決の発達について検討をするとともに、母親の視点取得との関連性、および母親の社会的問題解決の教え方と幼児の社会的問題解決との関連性について検討することを目的とした。

## 第3章 方法

### 3-1 対象者：

中国安徽省合肥工業大学幼稚園の園児とその母親90組。年齢は、幼児は3歳～6歳、母親は20代～40代であった。

3-2 調査期間：2018年1月～3月に実施した。

### 3-3 使用尺度

幼児に対する調査

- 1) フェイスシート：幼児には、氏名、年齢、性別を尋ね、母親には、年齢、職業を記入してもらった。
- 2) 幼児の認知的視点取得測定：本研究では心の理論課題の誤信念課題を使用した。
- 3) 幼児の感情的視点取得：渡辺・瀧口（1986）の感情理解課題に基づき、調査を行った。幼児は「喜び」「悲しみ」「驚き」「怒り」4つの顔の表情カードを用いて評定するよう求められた。
- 4) 幼児の社会的問題解決課題：子安・鈴木（2002）の社会的問題解決課題を使用した。この課題では図版を使用し、葛藤の状況を口頭で説明した。

## 母親に対する調査

- 1) 母親の視点取得：日本語版対人反応性指標（IRI）（日道・小山，2017）4因子のうち、1因子「視点取得」7項目を中国語に訳して使用した。
- 2) 社会的問題解決の教え方（子安ら，2002）を使用した。幼児の内容と同じく、意図（故意，偶然）×年齢（年上，同年齢）の条件を組み合わせ、質問紙形式で行った。

## 第4章 結果

### 4.1 対象者の属性

幼児 90 部母親 80 部が回収された。すべての調査に不備の無かった 80 組を分析対象とした。幼児の性別の内訳は、男児 43 名女児 37 名であった。本研究では、3～4 歳（36 ヶ月～48 ヶ月）を年少群，4 歳 1 か月～5 歳（49 ヶ月～60 ヶ月）を年中群，5 歳 1 か月～6 歳（61 ヶ月～90 ヶ月）を年長群に分け年齢群による比較を行った。母親は 80 人，平均年齢は 34.5 歳（ $SD = \pm 2.9$ ）であった。

### 4.2 視点取得平均得点と年齢性別の主効果

1) 幼児の認知的視点取得における年齢，性別の検討

年齢の主効果を検討するため，一要因の分散分析を行った。結果としては，有意な主効果が認められた（ $F(5, 74) = 15.39, p < .001$ ）。各群間の差を検討するため，Tukey の多重比較を行った。結果として，年長群は，年中群・年少群より有意に高かった。

2) 幼児の感情的視点取得における年齢，性別の検討

年齢の主効果を検討するために，一要因の分散分析を行った結果，有意な主効果が認められた（ $F(5, 74) = 4.38, p < .05$ ）。各群間の差を検討するため，Tukey の多重比較を行った。結果として，年長群は年少群より有意に高かった。

### 4.3 幼児社会的問題解決

回答について得点化を試みたところ、①攻撃的方略 1 点、②自己抑制的方略 2 点、③他者依存する方略 3 点、④自己主張 4 点を与えた。

年少群の平均得点は 2.6，標準偏差は.9 であった。年中群は 3.2，標準偏差は.8 であった。年長群の平均得点は 3.23，標準偏差は.8 であった。

### 4.4 幼児の認知的視点取得と感情理解の相関関係

認知的視点取得と感情的視点取得の間に有意な正の相関が見られた（ $r = .35, p < .001$ ）。

### 4.5 幼児の認知的・感情的視点取得と母親の視点取得の関係について

年少群は母親の視点取得は幼児の幼児認知的視点取得得点に有意な正の相関が認められた（ $r = .526, p < .05$ ）。

### 4.6 幼児の社会的問題解決と母親社会的問題解決教え方の相関関係

1) 全年齢母親の社会的問題解決の教え方と幼児の社会的問題解決の相関

幼児の年齢を考慮しない全母親社会的問題解決の教え方と幼児社会的問題解決の間に，偶然×同年齢（ $r = .31, p < .01$ ）と偶然×年長（ $r = .55, p < .01$ ）条件の場合，有意な正の相関が認められた。

## 第5章 考察

全体としてみた場合では、幼児の認知的視点取得は母親の視点取得の間に、有意な関連性が認められなかった。そこで年齢群別での検討を行ったところ、年少群の認知的視点取得と母親の視点取得には、中程度の相関が見られたが、中年齢・年長群の幼児には相関が認められなかった。また、年少群視点取得においてその母親の関連性が認められ、母親の認知的視点取得に影響されたことを示唆された。3歳の子どもたちは、幼稚園や保育園に通い始めたばかりであり、学校教育や友人の影響より、母親との絆が深い。そして幼児の成長し、母親による影響だけではなく、学校教育も大きく影響していくのではないかと考えられる。

中国では、「原生家庭 (family of origin)」という言い方がある。生まれて、育っていた家族と定義された。家族の雰囲気、生活習慣などは子どもの性格、対人関係、社会的スキルに影響を与える。この影響が深く、長いものである。母親の教育態度や対人葛藤場面の解決は、子どもに知らず知らずのうちに変化をもたらすのだと考えられる。

## 第6章 本研究の限界

本研究では、母親の視点取得得点は3～4歳の年少の幼児の認知的視点的取得に対して有意な影響がみられた。また、母親の社会的問題解決の教え方もある程度幼児の社会的問題解決に影響を与えることが示された。

本研究は横断研究による結果であり、同じ幼児が年齢の上昇とともに認知的・感情的視点取得や社会的問題解決はどのように発達していくか、今後は縦断研究を行い幼児の認知的視点取得発達を促す母親の要因について検討するとともに、父親、隔世代との関係も検討することは必要であろう。また、年少群の人数が少なかったことから人数を増やしさらに検討する必要がある。

## 引用文献

- Davis, M. H. (1983). Measuring individual differences in empathy: Evidence for a multidimensional approach. *Journal of Personality and Social Psychology*, 44, 113 - 126.
- Decety, J. & Svetlova, M. (2012). Putting together phylogenetic and ontogenetic perspectives on empathy. *Developmental Cognitive Neuroscience*, 2, 1-24.
- Denham SA, Mckinley M, Couchoud EA and Holt R: Emotional and behavioral predictors of preschool peer ratings. *Child Development*, 61, 1145-52, 1990.
- 大辻隆夫・塩川真理 (2000) . 幼児の共感性に関する研究 ころの健康 Vol. 15, No. 1
- 大対香奈子・松見淳子 (2007) . 「幼児の他者視点取得、感情表出の統制、および対人問題解決から予測される幼児の社会的スキルの評価」 社会心理学研究 第 22 巻第 3 号 223-233.
- Eisenberg, N. & Fabes, R. A. (1998) *Prosocial development*. In N. Eisenberg (Ed.). *Handbook of child psychology*. Vol. 3. Social, emotional, and personality development (5th ed., pp. 701- 778).
- Fabes RA, Eisenberg N, Nyman M and Michealieu Q (1991). : Young Children' s appraisals of others' spontaneous emotional reactions. *Developmental Psychology*, 27, 858-866.
- 東山薫 (2011) . 5, 6 歳児の心の理論と母親の心についての説明との関連. 教育心理学研究, 2011, 59, 427-440.
- 日道 俊之・小山内 秀和 (2017) . 「日本語版対人反応性指標の作成」 心理学研究. doi.org/10.4992/jjpsy.88.15218.
- 廣瀬央恵・岡村寿代・井上雅彦, 幼児における自己感情と他者感情の理解性差および年齢差についての検討 発達心理臨床研究 第16巻 2010 71-80
- 五十嵐哲也・萩原久子 (2004) 中学生の不登校傾向と幼少期の父親および母親への愛着との関連, 教育心理学研究, 52, 264-276
- 木下孝司 2008 乳幼児における自己と「心の理解」の発達 株式会社ナカニシヤ 心理学理論 2006
- 子安 増生; 鈴木, 亜由美 (2002) . 幼児の社会的問題解決能力と「心の理論」の発達. 京都大学大学院教育学研究科紀要, 48: 63-83
- 木下孝司 (2008) 共同注意と心の理論 (特集 乳幼児の共同注意)- 乳幼児医学・心理学研究, 17(1), 39-47, 2008
- 刘国艶, 王惠山 (2008), 両親の教育方法は幼児の行為および情緒に及ぼす影響 華中科技大学同济医学院公衆衛生学院儿少衛生与婦幼保健学系 Vol21.5 41-43
- Linda Rose Krasnor & Kenneth H. Rubin (1983) Preschool Social Problem Solving: Attempts and Outcomes in Naturalistic Interaction *Child Development* Vol. 54, No. 6, pp. 1545-1558
- 馬燕 (2010). 遊戯と児童心理学発達. 牡丹江教育学院, 5, 100-101.
- 森下正康 (2001) 幼児期の自己制御機能の発達 父親と母親の態度パターンが幼児にどのような影響を与えるか, 和歌山大学教育実践総合センター紀要, No. 11 87-100

- Myrna B. Shure & George Spivack and Marianne Jaeger (1971) Problem-Solving Thinking and Adjustment among Disadvantaged Preschool Children *Child Development* Vol. 42, No. 6, pp. 1791-1803
- 松永恵美・郷式徹 (2008) . 幼児の「心の理論」の発達に対するきょうだいおよび異年齢保育の影響. 発達心理学研究, 3, 316-327.
- 森野美央・早瀬円 (2005) . 幼児期における心の理論, 感情理解及び社会的スキルの関連. 幼児教育学研究, 14, 21-30.
- 森野美央 (2005) . 幼児期における心の理論発達の個人差, 感情理解発達の個人差, および仲間との相互作用の関連. 発達心理学研究, Vol 16, 1, 36-45
- 丸山愛子, (1999) 対人葛藤場面における幼児の社会的認知と社会的問題解決方略に関する発達の研究 教育心理学研究, Vol147, 4号, 451-461
- 松本恵美・郷式徹 (2008) 幼児心の理論に対するきょうだいおよび異年齢保育の影響 発達心理学研究 Vol119, 3 216-327
- 森下正康・庵田奈甫 (2005) 幼児期の親子関係と向社会的行動・攻撃行動のモデリング 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要 No. 15 2005
- 小川絢子・子安増生 (2008) . 幼児における「心の理論」と実行機能の関連性：ワーキングメモリと葛藤抑制を中心に. 発達心理学研究, 19 (2), 171-182.
- 柴田利男 (2006) . 「幼児における他者感情および他者の見かけの感情の認知」北星論集、43、1-10.
- 鈴木亜由美・子安増生・安寧 (2004) . 幼児期における他者の意図理解と社会的問題解決能力の発達：「心の理論」との関連から. 発達心理学研究, 15, 292-301.
- 戸田須恵子. (2006), 母親の養育態度と幼児の自己制御機能及び社会行動との関係について 北海道教育大学釧路教研紀要, No. 38, 59-69
- 田中里奈・清水光弘・金光義弘 (2013) . 「幼児期における他者視点取得能力の発達と社会性との関連」川崎医療福祉学会誌 Vol. 23 No. 1 59-67.
- 田中あかり・岩立京子 (2006) . 母親の幼児に対する「言葉かけ」が幼児の共感性に及ぼす影響：ポジティブな感情の共感に注目して 東京学芸大学紀要 総合教育科学系, 57: 63-70.
- 渡辺弥生 (1986) . 「幼児の共感と母親の共感との関係」Jap. J. of Educ. Psychol. 34, 324-331.
- 渡辺弥生, 石井昭男 (2011) 子どもの感情表現ワークブック 株式会社 明石書店
- Xinyin Chen & Kenneth H. Rubin & Paul D. Hastings & Huichang Chen & Guozhen Cen & Shannon L. Stewart (1998), Child-Rearing Attitudes and Behavioral Inhibition in Chinese and Canadian Toddlers: A Cross-Cultural Study *Developmental Psychology*, Vol. 34. No. 4, 677-686
- 山田美菜子 (2014) . 幼児の心の理論の獲得と感情理解・社会的スキルの関連 関西学院大学心理科学研究 Vol. 40. 3 : 39~46
- 山内弘継 (2006) 心理学概論 ナカニシヤ
- 高橋靖子・野々部友香 (2018) 母親の養育態度と乳幼児の気質が幼児の不安傾向に及ぼす影響：家庭の雰囲気を経介要因とした, 愛知県大学紀要, 2018, March, 67-1, 167-174
- 左彩霞 (2012) 3歳～6歳いじめ行動と心の理論発達の関係性, 西北師範大学, 修士論文